

# 愛南町 SDGs 水産環境未来都市構想 (2026~2029)



いろこい あいなん

ainan

愛媛県 愛南町

## 愛媛県愛南町

# 目次

1 将来ビジョン .....	1
(1) 取組みの柱.....	1
(2) 取組みのイメージ（ビジョンマップ） .....	1
2 自治体 SDGs の推進に資する取組み.....	3
(1) 愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト.....	3
(2) 海洋ごみ対策プロジェクト.....	6
(3) サステイナブルフィッシュ認証プロジェクト.....	8
(4) スマート水産業推進プロジェクト.....	11
(5) 海洋人材育成プロジェクト.....	14
(6) 海業振興プロジェクト.....	17
3 推進体制 .....	20
(1) 各種計画への反映.....	20
(2) ステークホルダーとの連携.....	21
4 地方創生・地域活性化への貢献.....	23

## 1 将来ビジョン

### (1) 取組みの柱

愛南町の地域の実態を踏まえ、強みを生かし、弱みや課題を克服し、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通じて、持続的な漁業の振興やまちづくりを推進するために、SDGs 水産環境未来都市構想を策定します。

その取組みとして、環境に配慮したサステナブル水産業、地球規模で大きな問題となっている海洋プラスチックごみを新たな地域エネルギーとして再生し、町内で循環する海洋プラスチックごみ対策、CO<sub>2</sub> 吸収による温暖化を抑止するブルーカーボンプロジェクト、食品加工残渣などの無駄なごみを削減するゼロエミッション、ゼロ・ウェイストなどの SDGs サーキュラーエコノミーシステムの構築等を総合的に推進することで、さまざまなコベネフィットを生み出し、持続可能なまちづくりを実現していきます。

具体的な取組みの柱として、以下の6つのプロジェクトを推進していきます。

- ① 愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト
- ② 海洋ごみ対策プロジェクト
- ③ サステナブルフィッシュ認証プロジェクト
- ④ スマート水産業推進プロジェクト
- ⑤ 海洋人材育成プロジェクト
- ⑥ 海業振興プロジェクト

### (2) 取組みのイメージ（ビジョンマップ）

愛南町で検討している SDGs 水産環境未来都市構想の取組みのイメージとして、ビジョンマップを次頁に示します。

# 愛南町海業グランドデザイン 「すべての世代の想いがつながり、共にワクワクする舞台」

※各プロジェクトは例示であり、今後更新されていきます。また、未来の構想やアイデアも含まれます。

地図：国土地理院全国ラングランドデザインモザイク画集





図 1 愛南町グランドデザインより

## 2 自治体 SDGs の推進に資する取組み

### (1) 愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト

本プロジェクトでは、藻場の回復による海洋生態系の保全と、海中への炭素固定（ブルーカーボン）を定量的に評価し収益化する仕組みを構築します。これらを通じて、環境保全と水産業の持続的な発展を両立させ、以下の SDGs ターゲットと KPI の達成を目指します。

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	14.2	指標：ウニッコリー養殖の事業化（生産量）	
		現在（2024年度）： 11.1kg	目標（2029年度）： 13.4kg
	9.4	指標：カーボンオフセットの制度設計・商品開発を行う	
		現在（2024年度）： 34.8 t / CO <sub>2</sub>	目標（2029年度）： 40 t / CO <sub>2</sub>

<主な取組み>

#### ■藻場造成・再生・養殖・モニタリング事業

現在、愛南町では磯焼けの要因となっているガンガゼの駆除作業を行うとともに、海藻種苗や母藻の投入による藻場造成に取り組んでいます。また、駆除したガンガゼの一部は「ウニッコリー」として、愛媛大学等と連携しながら畜養を行っています。

ウニッコリーの餌には、町の特産品であるブロッコリーと河内晩柑（愛南ゴールド）の端材や市場に流通できない規格外品等を利用することにより、廃棄量の削減につながります。ブロッコリーを与えることによって、ガンガゼ特有の苦みやえぐ味が軽減され、甘味が増してまろやかになります。さらに、出荷前に愛南ゴールドを与えることで、ほのかな柑橘の香りが加わり商品付加価値の向上にも寄与しています。



図 2 ガンガゼ除去による藻場造成試験(左:除去前、右:除去後)



図 3 ガンガゼと製品化したウニッコリー

### ■ブルーカーボンとJブルークレジットの活用

ブルーカーボンとは、海洋生態系（藻場、海草藻場、干潟、マングローブ等）によって吸収された CO<sub>2</sub> が、海底や深海に貯留される炭素のことです。ブルーカーボン創出の取組は CO<sub>2</sub> の吸収だけでなく、多くの海洋生物の産卵や育成場所、そして漁業資源の回復やレジャー・教育の場を提供するなど、地域社会と環境に恩恵をもたらせます。

そして、このブルーカーボンの取組を定量的に評価し、取引可能なクレジットにしたものが、Jブルークレジットです。Jブルークレジットはジャパンブルーエコノミー技術研究組合（JBE）により認証・発行され、発行されたクレジットを企業等が購入することで、そのクレジット分を自らの CO<sub>2</sub> 排出量のオフセット（相殺）として活用できます。

愛南町ブルーカーボン推進協議会では、真珠母貝養殖に用いる幹縄筏に繫茂するマメタワラの CO<sub>2</sub> 吸収量から申請し、Jブルークレジットの認証を受けています。クレジットの取引により得られた資金は、幹縄筏の維持管理や、漂着ごみの回収といった漁場環境の保全費用に充てられ、真珠母貝養殖の継続が、持続的な脱炭素化社会への推進と、持続的な水産業に向けた自律的な好循環を生み出します。

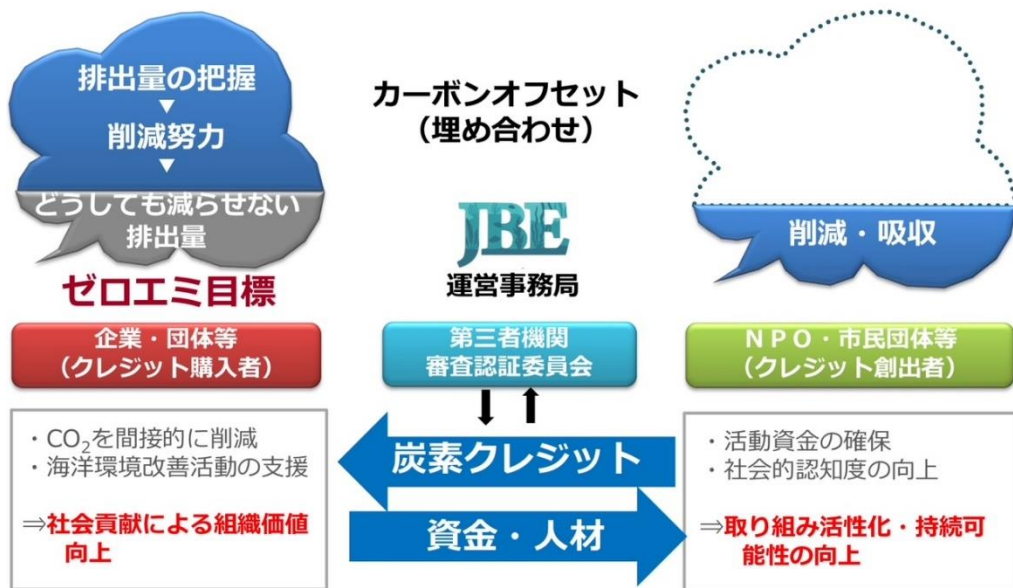


図 4 Jブルークレジットの仕組み

出典：JBE「ブルーカーボン・クレジット制度（Jブルークレジット®）の状況」

## 未来に繋ごう！真珠のふるさと愛南町

### ～幹縄筏が生み出すブルーカーボンプロジェクト～

**愛南町ブルーカーボン推進協議会**  
愛南漁業協同組合、家串・油袋・平郷・柏崎真珠母貝生産組合、愛南町役場  
 国立大学法人愛媛大学南予水産研究センター、一般社団法人Umidas

#### プロジェクト概要

- ✓ 愛南町は真珠母貝生産量が全国トップクラスですが、漁業者の減少が著しく、真珠産業の存続が危惧されます。
- ✓ 真珠母貝養殖筏（幹縄筏）には作業の支障となる海藻（マメタワラ）が毎年繁殖します。
- ✓ 漁業者はこれを除去し、同海域の『藻捨て場』と呼ばれる区画に移動する作業を頻繁に行っています。
- ✓ 漁業者が管理する筏が貴重なブルーカーボン創出源となり、日常作業が海中への炭素固定に貢献すると捉えた、新発想のプロジェクトです。

申請対象：愛南町内4海域の幹縄筏のマメタワラ  
 今期認証量：33.8(t-CO<sub>2</sub>) 藻場面積：8.83ha

#### 特徴

- ✓ 貝類養殖筏では**全国初、四国第一号**の認証
- ✓ **産業活動そのものが脱炭素社会に貢献**
- ✓ 取得したクレジットは**真珠産業の保全・活性化**に繋げる他、**環境保全活動**や**環境教育**等にも活用



海浜清掃



水産人材育成  
(きよよく教育)



藻捨て場に運ぶ漁業者



真珠母貝表面の  
洗浄作業



幹縄筏のマメタワラ





養殖される真珠母貝

**愛南町は真珠母貝養殖の継続で持続可能な脱炭素社会を実現します**

図 5 愛南町ブルーカーボン推進協議会の取組

## (2) 海洋ごみ対策プロジェクト

本プロジェクトでは、発泡スチロール減容機や樹脂燃料ハイブリットボイラ導入、住民参加型の海岸漂着プラスチックごみ回収、防災対応型洋上風力発電事業の検討等に取り組む、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
	14.1 17.17	<div style="background-color: #fff9c4; padding: 2px;">指標：町内外ボランティアによる海浜清掃活動の実施回数</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">           現在（2025年度）： 11回         </div> <div style="width: 45%;">           目標（2029年度末）： 11回         </div> </div>
		

<主な取組み>

### ■発泡スチロール減容機、樹脂圧縮成型機の導入

愛南漁協では、使用済み発泡スチロール製フロートの減容・リサイクル技術を導入、久良漁協でも数年に一回レンタルにて本技術を利用しており、今後は今まで町外に処理を委託していた廃発泡スチロールフロートの全量を町内で樹脂燃料化することで、コストの縮減と再資源化による地域再生エネルギー循環に貢献することを目指していきます。



図 6 使用済み発泡スチロール製フロートの減容リサイクル技術と減容ペレット化

### ■海岸漂着プラスチックごみ回収事業



愛南町では、豊かな海を守るため漂着ごみの海浜清掃活動に取り組んでおり、愛南町、各漁協、漁業者、愛媛大学及びボランティア団体が協力して、海岸に漂着したプラスチックごみや流木等を回収しています。また、台風や暴風雨の際に、海に流れ出る漂流ごみの多くは流木ですが、プラスチックごみも流れ出ていることから、愛南町と各漁協が連携して回収作業に取り組んでいます。



図 7 海岸漂着ごみ回収イベントの様子

### (3) サステナブルフィッシュ認証プロジェクト

本プロジェクトでは、MEL や BAP 及び ASC 認証といった環境配慮型養殖業の推進や国際コールドチェーン、環境に配慮した梱包資材への転換等に取り組み、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 12 つくる責任 つかう責任	12.2	指標：環境配慮型養殖業の認証事業者の増加	
	14.4	現在（2025 年末）： 認証事業者数 12 件 （延べ件数）	目標（2029 年度末）： 認証事業者数 13 件 （延べ件数）
 14 海の豊かさを 守ろう			

#### <主な取組み>

##### ■環境配慮型養殖業

環境配慮型養殖業として水産エコラベル認証の活用を推進していきます。水産エコラベルとは、生態系や資源の持続性に配慮した方法で生産された水産物に対して、消費者が選択的に購入できるようラベルを貼付する認証スキームのことで、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の調達基準として採用されたほか、近年エシカル消費への関心の高まりも相まって、世界的に注目されています。

主な認証制度には、日本発祥で国際基準（GSSI）の承認を受けている MEL(マリンエコラベルジャパン)を始め、養殖業を対象とした ASC や BAP、天然漁業を対象とした MSC などがあります。これらの認証は、生産段階の認証制度だけでなく、流通加工段階（CoC 認証）の認証も不可欠です。消費者に対し認証制度の水産物と証明するまでには、流通・加工・販売まで認証がとれており、トレーサビリティ（追跡履歴）がある取組みが求められています。

愛南町では、愛南漁協の次世代を担う青年漁業者連絡協議会のメンバーを中心に、漁協単位で全国トップクラスの生産量を誇るマダイについて、MEL 認証をグループで取得したほか、CoC 認証を取得して流通加工業者においても、更に SCSEA 認証制度においても持続可能な水産養殖のための種苗認証及び CoC 認証を取得し、サステナブルな養殖魚の販売を進める体制を整えています。



図 8 町内の事業者等が取得・申請・検討している認証制度



図 9 2020 年に MEL 2023 年には BAP 認証を取得した 愛南マダイ

出典：愛南漁業協同組合

## ■国際コールドチェーン

輸出の取組みを推進していく中で、輸送時間がかかるため通常の輸送では輸送中の品質低下によるロスが発生してしまう実態があります。そこで、愛南漁協では食品の鮮度を長く保ち、菌の発生を抑制してロス率を限りなくゼロに近づけるような技術の取り込みや、鮮度や品質が落ちない冷凍技術の導入などを検討して、輸出においてコールドチェーンを確立させる取組みを推進していきます。



## ■環境配慮型梱包資材への転換

従来使用している発泡スチロールでは箱自体の容積が大きいことから運送する際に積載率が悪く、加えて発送してしまえばその後再利用も出来ず使い捨てとなってしまうため、より環境に配慮し、かつ水産物としての価値を落とさないよう保冷能力に長けている、カーボンニュートラルダンボール梱包資材を使った実証試験を行っています。

適切に管理されている森林の資源のみを利用している段ボールであれば再生可能な資源であり、ダンボールの原料になる木材は、光合成によって CO<sub>2</sub> を吸収することで成長するため、焼却処分したとしても大気中に新たな CO<sub>2</sub> を増加させないクリーンな包装資材であると考えられます。実証試験の中では箱を組み立てるコストや箱の保存場所、輸送中の内部温度が不安定などの課題があり、それらの課題を解決させて、実用化につなげるための検討を引き続き進めていきます。

#### (4) スマート水産業推進プロジェクト

本プロジェクトでは、愛南町次世代型水産業振興ネットワークシステム等の既存システムを十分に活用するため、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	9.4 14.2	指標：愛南町次世代型水産業振興ネットワークシステムの登録者数	
		現在(2024 年度末)： 338 人	目標(2029 年度末)： 400 人
		指標：魚病診断尾数	
		現在(2024 年度末) 6,241 尾	目標(2029 年度末) 5,500 尾
 14 海の豊かさを 守ろう			

<主な取組み>

#### ■水域情報可視化の DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進

町内全養殖漁場の水質情報(水温、DO(溶存酸素量)、塩分濃度、クロロフィル)のリアルタイム可視化するシステムや魚病電子カルテシステムを運用しています。これにより愛南漁協や愛南町から最新の水域・魚病情報を漁業者に迅速に提供し、戦略的な漁業・養殖業の実現を強力に支援しています。特に養殖魚の健康診断や魚病検査を行う「魚病診断室」については町職員が診断業務を担っています。町独自の専門体制を構築することで、現場の漁業者に対して、より迅速かつ公的な立場からのきめ細かなサポートを可能にし、地域一体となった高品質な養殖生産を支えています。

また、漁業者と愛媛大学、愛南漁協、愛南町から水産物の消費拡大のため、消費者にアピールする一連の流れを ICT の活用により行っており、継続して産学官の連携により実施していきます。



図 10 次世代型水産業振興ネットワークシステムの概念図

## ■水産スマートモニタリングシステム

従来の手作業での水質調査について、ICT プイを活用することで自動化し、水産スマートモニタリングシステム開発の検討を進め、赤潮・魚病等の発生予測 AI システムを構築しました。PC やスマートフォンでも情報を確認できることで、より迅速に対応できるような仕組みを検討していくことと、新規で設置する箇所を増やすことで、より広域で効果的に活用できるシステムの開発を推進していきます。

具体的には養殖業者が多く、有害赤潮や魚病等の漁業被害が多い水域への観測機器（水質テレメータシステム）の設置や、赤潮発生源の可能性が高い水域に自動顕微鏡システム（seaMS）を設置し、引き続き養殖漁場の定点観測を行っていきます。これらの環境情報は、クラウドシステム上にリアルタイムで送信・蓄積され、PC やスマートフォン等の Web アプリ上にて漁業者がいつでも利用可能なシステムとして活用します。今後は、現在まで同水域にて取得・蓄積してきた過去水質データや、周辺水域等の環境データを用いて機械学習（時系列解析）を行い、より高度な魚病や有害赤潮等の漁業被害予測を可能にする AI システムを改良していきます。

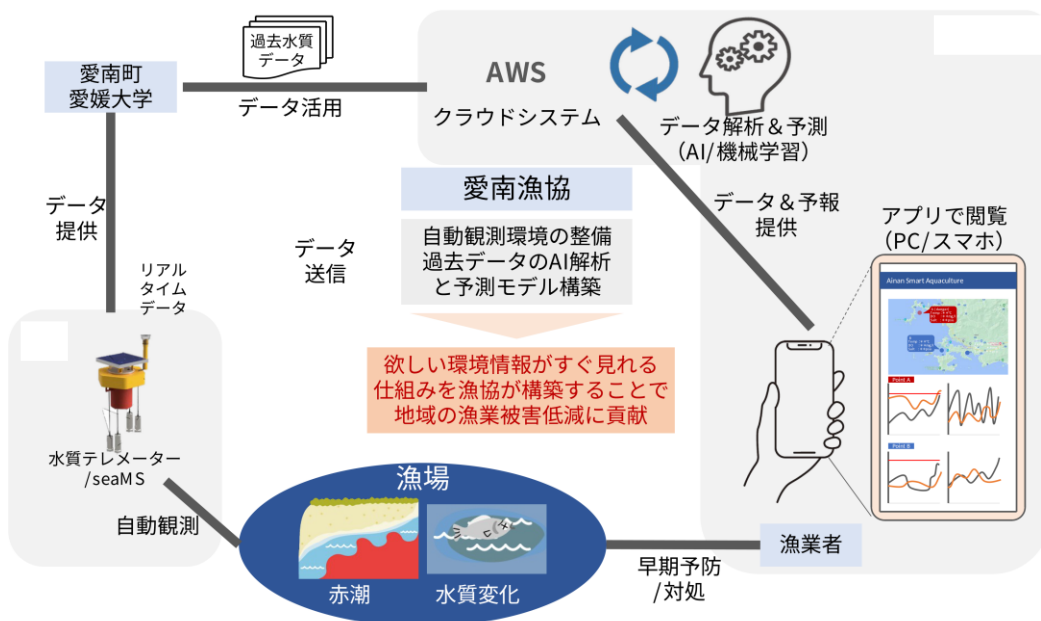


図 11 水質異常警報システムのイメージ

(5) 海洋人材育成プロジェクト

本プロジェクトでは、愛南町水産人材育成事業の拡充や愛南町クリーンオーシャンツーリズム等に取り組み、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号	KPI			
 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	4.4	<p>指標：水産人材育成事業の延べ参加人数</p> <table border="1" data-bbox="647 611 1366 804"> <tr> <td data-bbox="647 611 992 804">                     現在（2025年度）： 延べ 185 人 （※第6回時点）                 </td> <td data-bbox="992 611 1366 804">                     目標（2029年度末）： 延べ 200 人                 </td> </tr> </table>	現在（2025年度）： 延べ 185 人 （※第6回時点）	目標（2029年度末）： 延べ 200 人
現在（2025年度）： 延べ 185 人 （※第6回時点）	目標（2029年度末）： 延べ 200 人			
 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>  <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>14 海の豊かさを 守ろう</p>	4.7 12.8 14.b	<p>指標：ぎょしょく出前講座の参加人数</p> <table border="1" data-bbox="647 853 1366 1520"> <tr> <td data-bbox="647 853 992 1520">                     現在（2024年）： 年間 5,873 人                 </td> <td data-bbox="992 853 1366 1520">                     目標（2029年度末）： 年間 7,000 人                 </td> </tr> </table>	現在（2024年）： 年間 5,873 人	目標（2029年度末）： 年間 7,000 人
現在（2024年）： 年間 5,873 人	目標（2029年度末）： 年間 7,000 人			

<主な取組み>

■愛南町水産人材育成事業の拡充

将来の水産業を担う人材の育成を目的として、愛南町で取り組んでいる持続可能な取組みも含め、既に取り組んでいる町内の南宇和高等学校へ、水産業の魅力を伝える体験講座を引き続き実施していきます。座学だけでなく、希望者には養殖現場での実習など講座内容もさらに拡充させていきます。



図 12 出前講座実施の様子

### ■愛南町クリーンオーシャンツアーリズム

これまで愛南町で取り組んできた「ぎょしょく教育」や、前述したクリーンツアーリズムやサーキュラーエコノミー事業をはじめとする各プロジェクトの体験ツアー、海岸の漂着物を活用したシーボーンアートなどを組み合わせ、愛南町クリーンオーシャンツアーリズムとして、修学旅行や社員研修などの誘致を行い、町の経済活性化にもつなげていく取り組みを推進していきます。

「ぎょしょく教育」では新型コロナウイルス感染症の影響により、調理実習や行動制限により町外での活動が困難になったことから、令和 2 年度から新たな社会様式に対応した動画サイトや SNS、アプリケーションの開発など、DX の取組みも加速させています。



図 13 シーボーンアートのイメージ

出典：シーボーンアート愛南教室

(一般社団法人 愛媛県観光物産協会「いよ観ネット」)



図 14 アプリケーションを使った出前事業実施の様子



# AINAN GYO-RANGER CHANNEL



## 愛南ぎょレンジャーちゃんねる

@gyoranger · チャンネル登録者数 696人 · 181本の動画

このチャンネルの詳細...さらに表示

チャンネル登録

ホーム 動画 ショート 再生リスト



### 【鯉】鯉のお刺身 プロが教える鯉の刺し身

39,156 回視聴 · 3年前

愛媛県愛南町で水揚げされた鯉をご家庭でお刺身やたたき、煮物に。鯉ファイルからお刺身を作ってみましょう！

愛南漁協公式オンラインショップ  
<https://f-ainan-shop.com/>

詳細

### 作成した再生リスト



ぎょしょく出前授業  
再生リストの全体を見る



撃輪杯  
再生リストの全体を見る



海業 (うみぎょう: UMIGYO)  
再生リストの全体を見る



ぎょレンジャーストーリーズ  
再生リストの全体を見る



ウニッコリー  
再生リストの全体を見る



あいなん逸品回遊 (あいなん物産探訪)  
再生リストの全体を見る

### 人気の動画



【鯉】鯉のお刺身 プロが教える鯉の刺し身  
3.9万 回視聴 · 3年前



【社説】ホットプレートで簡単！焼きかき 殻付き愛南...  
2.7万 回視聴 · 3年前



【真鯛】真鯛のさばき方① プロが教える真鯛の3枚おろし  
2.3万 回視聴 · 5年前



【鯉】かつおのさばき方 プロが教える鯉の3枚おろし  
1.9万 回視聴 · 3年前



【真鯛】真鯛のさばき方②〜キッチンバサミ使用編〜  
1.4万 回視聴 · 5年前



【鯉：ブリ】ぶりのさばき方 プロが教えるブリのおろし方  
1.4万 回視聴 · 4年前

### ショート



カツオこいのぼり こどもの日/こどもの健...  
350 回視聴



日本庭園を疾走!? 愛南シクロクロスin長洲園...  
168 回視聴



超簡単おいしい寿司ねた刺身の作り方 【鯉...】  
4210 回視聴



超簡単おいしい乾燥ひろめのお吸い物 お寿...  
771 回視聴



2億年前からの生きた化石? 魔界生物? 棘皮動...  
1462 回視聴



New Costumes Completed ゴキョク...  
276 回視聴

図 15 「ぎょしょく教育」活動で作成・配信した動画例

## (6) 海業振興プロジェクト

本プロジェクトは、水産物の「獲る・育てる」という従来の生産活動に加え、海や漁村が持つ多様な価値（食、景観、体験、文化）を再発見・活用する「海業（うみぎょう）」を強力に推進します。これにより、漁業者の所得向上と、関係人口の創出による地域経済の循環を加速させ、愛南町海業グランドデザインのプロジェクトを核として、愛南町の未来を切り開く取組を推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
<b>5</b> ジェンダー平等を 実現しよう 	5.1 8.9 9.1 11.a 13.1	<b>指標：海業に関するコンテンツへの参加者数</b> 現在（2025年）： 取得予定 目標（2029年度末）： 400人
<b>8</b> 働きがいも 経済成長も 	14.7 14.b	
<b>9</b> 産業と技術革新の 基盤をつくろう 		
<b>11</b> 住み続けられる まちづくりを 		
<b>13</b> 気候変動に 具体的な対策を 		
<b>14</b> 海の豊かさを 守ろう 		

<主な取組み>

### ■海業グランドデザインの推進

#### (1) 愛南海業コンシェルジュ Umidas プロジェクト

持続可能な地域経済を支えるため、地元企業、住民、飲食店、加工業者、そして観光客を多層的に結びつける「愛南海業コンシェルジュ Umidas プロジェクト」を推進しています。本プロジェクトの大きな成果として、このたび「一般社団法人 Umidas」を設立いたしました。今後は同法人を核とした中間支援体制のもと、多様な主体が手を取り合う「共創関係」の構築を加速させてまいります。

#### (2) 愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト

海洋生態系の守り手として、まずは「愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト」に注力します。食害をもたらすガンガゼウニの密度を適正に管理することで藻場を再生し、さらに真珠養殖筏に繁茂する海藻による「Jブルークレジット®」の認証範囲を拡大。海中の炭素吸収源を増強し、地球温暖化対策と豊かな海づくりの両立を図ります。

#### (3) 「人が繋がる、海から始める。インバウンド！A I N A N ツアー生成」プロジェクト

西海エリアの美しい海を舞台に、マリリアクティビティを核とした「人が繋がる、海から始める。インバウンド！A I N A N ツアー生成」プロジェクトを展開します。

訪日外国人観光客をターゲットとした体験型ツアーを構築し、愛南町ならではの自然の魅力を世界へ発信することで、国際的な観光交流の活性化を目指します。

#### (4) 愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト

これまで町内の教育機関を中心に展開し、高い評価を得てきた「ぎょしょく教育」を観光の柱へと昇華させるのが「愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト」です。一般向けの教育旅行や企業の社員研修プログラムとして再構築し、愛南町独自の「魚食文化」を体験価値に変えることで、広域からの集客力を高めます。

#### (5) 愛南町きらめき海道プロジェクト

何度も愛南に足を運びたいくなる既存のイベントやコンテンツを取り上げ、宣伝を図る。観光客へ観光動線の案内（パンフ効果）も果たし、リピーターづくりのきっかけを創造する。観光資源や地域特色の認知度向上、周遊促進による地域での滞在時間の延長による消費拡大を目的とする。

情報の共有を行うことで各イベントの相乗効果を狙い、関係人口の増加や、輪の拡大を図る。

## ■水産ライフ・ワーク・バランスプロジェクト

人口減少に伴う労働力不足や雇用対策が必要とされている中、水産業への就業に「休みが取れない」「賃金が低い」「力仕事のみ」といった不安やネガティブなイメージを抱え、新規就労者が有意に増加しない現状があります。

この問題に対して、水産ライフ・ワーク・バランスプロジェクトでは、水産加工業、マリンレジャーなど水産関連産業の多様化、自動給餌器等の作業自動化設備の導入、水産現場における福利厚生の見直しなど、年齢性別問わず働きやすい環境づくりに取り組むステークホルダーと連携し、愛南町の水産業におけるライフ・ワーク・バランスを刷新していくことを目指します。

現在町内では、水産業の担い手造成のため、将来水産関連業に就職を希望する町内の高校生や愛媛大学南予水産研究センターの所属学生を対象に愛南町水産業インターンシップ支援事業を実施し、夏季・冬季休業を利用した水産関連業への就労体験の場を提供しております。

また、愛南町産水産物の生産現場を知ってもらう取り組みとして、南宇和高等学校を対象に、水産業の現場を体感して学ぶ愛南町水産人材育成事業の実施しているほか、松山大学愛南マダイ応援隊による愛南町内のフィールドワークやイベントの実施、SNS投稿などの情報発信活動を行い、愛南町の水産業に対するイメージアップに取り組みます。



図 16 インターンシップに参加した南宇和高校の生徒及び愛媛大学の学生の様子



図 17 松山大学愛南マダイ応援隊のフィールドワーク及び情報発信活動の様子

### 3 推進体制

#### (1) 各種計画への反映

上位計画と本構想の関係性について、第3次愛南町総合計画（2022～2029）と本構想の関係性を以下のとおり整理します。今後、本構想は町内の農林水産業及び商工業や観光業との各種計画とも連携しながら施策を執行してまいります。

①基本構想：町の将来像とそれを実現するための政策

【政策】活力ある産業を育てるまちづくり



②基本計画：基本構想に掲げる施策のめざす姿（目的）の明確化と政策に貢献する基本事業の制定（前期 2022～2025、後期 2026～2029）

【基本事業】水産業の振興

【施策の目指す姿】漁業経営の安定化及び持続可能な水産業の推進



③事務事業：基本事業のめざす姿を実現するための具体的な手段

【持続可能な漁業の推進】

- ・ カーボンニュートラル漁業を目指し、環境負荷の軽減及び資源の持続性に配慮した漁業の推進
- ・ 指標：各種認証取得に基づく輸出量 102.0 t →150.0 t



④愛南町 SDGs 水産環境未来都市構想：経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通じて、持続可能な漁業の振興やまちづくりを推進するための構想

【愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト】

【海洋ごみ対策プロジェクト】

【サステナブルフィッシュ認証プロジェクト】

【スマート水産業推進プロジェクト】

【海洋人材育成プロジェクト】

【海業振興プロジェクト】

## (2) ステークホルダーとの連携

本構想の推進にあたり、行政や漁業者を始め各種ステークホルダーとの連携は不可欠であり、主要なステークホルダーについては以下のとおり想定しています。

- 行政：海業振興課及び関係部署
- 漁業者：愛南漁協及び久良漁協、その組合員
- 教育機関：町内の保育所・幼稚園・小・中学校、南宇和高等学校、宇和島水産高等学校
- 研究機関：愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学
- 事業者：地域の水産に係る流通・加工・小売業者、観光関連業者、NPO 法人（就労支援組織）等
- 町民：愛南町の町民

各プロジェクトに関するステークホルダーの分担は次頁の表のとおりです。

◎：主たる実施主体

●：従たる実施主体

<取組みごとのステークホルダーの役割分担>

プロジェクト名	主な取組み	行政	愛南 漁協	久良 漁協	教育 機関	研究 機関	事業 者	町民
愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト	藻場造成・再生・養殖・モニタリング事業	◎	◎	◎		●	●	
	ブルーカーボンとJブルークレジットの活用	●	◎			●	●	
海洋ごみ対策プロジェクト	発泡スチロール減容機、樹脂圧縮成型機の導入		◎	●				
	海岸漂着プラスチックごみ回収事業	◎	●	●	●		◎	◎
サステナブルフィッシュ認証プロジェクト	環境配慮型養殖業	●	◎	●		●	◎	
	国際コールドチェーン		◎				●	
	環境配慮型梱包資材への転換		◎				●	
スマート水産業推進プロジェクト	水域情報可視化の DX（デジタルトランスフォーメーション）推進	◎	◎	●		◎	●	
	水産スマートモニタリングシステム	●	◎	●		●		
海洋人材育成プロジェクト	愛南町水産人材育成事業の拡充	◎	●	●	◎			
	愛南町クリーンオーシャンツアーリズム	◎	●	●	●		◎	●
海業振興プロジェクト	海業グランドデザインの推進	◎	●	●	●	●	◎	●
	水産ライフ・ワーク・バランスプロジェクト	◎	●	●			◎	●

#### 4 地方創生・地域活性化への貢献

水産業が基幹産業である愛南町にとって、沿岸漁業の持続可能性も重要ではありますが、水産資源は年々減少し、海洋環境も変化していることから、これからは安定供給できる養殖業が水産物供給の中心となる時代を迎えると考えられます。

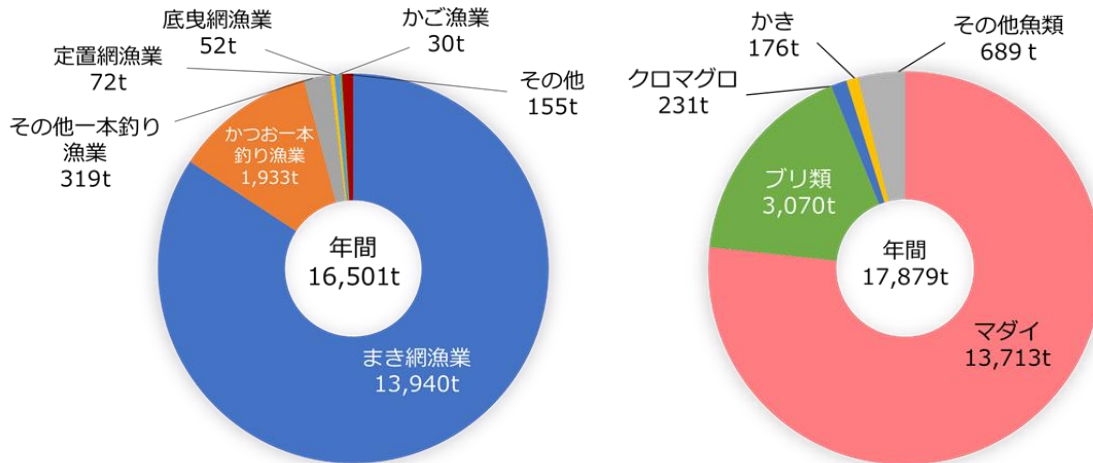


図 18 令和5年愛南町の漁業・養殖生産量

出典：愛南漁業協同組合・久良漁業協同組合「業務報告書」、港勢調査（2023）

本町の特徴であり、国内でもトップクラスの生産量を誇るマダイの養殖を中心とした関連産業は町の基幹産業であり、この取組みを伸ばすことは、愛南町全体の地域活性化にとっても必要不可欠になってくると考えられます。

そのためにも労働力の確保なくして産業の維持・拡大は見込めないため、人口流入対策もさることながら、働きたくても働けない、潜在的な子育て世代の労働力の活用、定着率の向上を支援する取組みが特に重要となってきます。

また、それらの取組みを加速させるためにも、経済・社会・環境が循環しあいながら本構想を推進することで、愛南町全体の活性化につながり、持続可能な愛南町の水産業及び町の発展に寄与して、地方創生・地域活性化への貢献になると確信しています。